

学習習慣や生活習慣の傾向 ～児童生徒質問紙調査から～

中学校	具体的な方策
<p>「基本的な生活習慣（起床、朝ごはん）」については、全国と大きな差は見られませんでした。就寝については、若干全国平均より低い結果となりました。</p> <p>「日常の学習習慣（家庭学習）」については、課題が見られます。特に家庭学習の時間については、「休日全くない」と答えた生徒の割合が40%、「平日全くない」と答えた生徒の割合が66.7%となっており、全国とも大きな差があります。</p> <p>一方で「自分には良いところがありますか」という項目や「学校に行くのは楽しいですか」や「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という項目ではよくあるまたは、ときどきあると答えた生徒は、大きく全国平均を超えています。このことから、生徒の学校・家庭生活への満足度は高いものと考えられます。</p>	<p>◇家庭学習について、学校全体で考えを交流し、充実を図り家庭学習の意義について認識を高めていきます。</p> <p>◇家庭学習の方法（ICT機器の利用なども含み）や生徒それぞれにあった学習のやり方について授業中や豊中タイムなどで一緒に考えていく機会を作っていきます。</p> <p>◇ぜひご家庭でも、将来の自分について話題にあげてお子さんと一緒に考えて行っていただくと嬉しいです。</p>

児童生徒をより伸ばすための学校の取組み（改善策）

小学校
<p>【国語】 児童が高い学習意欲や自己肯定感を持っているという土台を生かしつつ、学力における課題である「思考・判断・表現」の観点の改善に注力し、特に「書くこと」の領域においては、条件に合わせながら自分の考えをノートや端末にまとめる活動を展開し、書く力の向上を図ります。</p> <p>【算数】 「問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかななどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業」をより充実させ、表現力を高めるための指導が実際の学力に結びつくよう工夫していきます。</p> <p>【理科】 日常生活や社会における事象との関連を図った授業を増やし、自然の事物・現象から児童が自ら疑問や問題点を見だし、既習の内容や生活経験を基に予想や仮説を発想する活動を授業に積極的に取り入れ、結果やデータに基づいて筋道を立てて考え、論理的に説明し表現する力（記述力）の向上を図ります。</p>

中学校
<p>【国語】 「知識・技能」の学習については全国平均正答率を上回っているため、「思考・判断・表現」の観点に課題あることから、「なぜだろう？どうしてだろう？」を大切に、仲間と共に自ら学んでいく授業への転換をはかっています。</p> <p>【数学】 「素数の意味を理解しているかどうかをみる」や「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」の領域に課題あることから、自分で考えた解き方や考えを周りの人と交流・説明できるような学習への転換をはかっています。また、無回答の数が多い問題もあるため、個別最適化した授業を行なっています。</p> <p>【理科】 「知識・技能」の間に課題あることから、家庭学習や小テストを利用しながら、知識・技能を高める取り組みを増やしています。</p>

豊頃町の児童生徒の学習・生活の充実のために

- 学校では、基礎的・基本的な学習内容の確実な習得に努めるとともに、これを基盤とした「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を推進し、特に記述力を含む思考・表現力の向上を重点的に図ります。また、教職員がより児童生徒に向き合う時間を確保できるよう、ICTを活用した校務の効率化を推進します。
- 家庭では、学校と連携・協力し、良好な「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を維持していただきますよう、ご協力をお願いいたします。また、家庭学習の習慣化に取り組み、テレビやゲーム、動画視聴時間と学習や読書の時間のバランスを見直していただくようご協力をお願いいたします。
- 地域では、学校行事や日常の活動場面において、積極的に活動している子どもたちへの温かい励ましと、学校の教育活動への更なるご協力をお願いいたします。

教科ごとの傾向

小学校
<p>国語 ◇「知識及び技能」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、平均正答率は全国平均との差が小さく、基礎的な知識の定着については一定の成果が見られます。</p> <p>◇「書くこと」の領域においては、全国・全道平均正答率を大きく下回り課題となっています。特に記述式問題の平均正答率は全国平均正答率との差が大きく、指示された条件のもと、自分の意見や考えを書き表すこと、表現することに苦手意識が見られ、課題となっています。</p>
<p>算数 ◇「知識・技能」や「図形」の領域については、概ね定着が図られています。</p> <p>◇「数と計算」や「変化と関係」の領域において、全国平均を下回る結果となり、思考過程を筋道立てて言葉や数、式を用いて記述・説明する力に課題が残ります。</p>
<p>理科 ◇「知識・技能」および「生命」の領域において平均正答率は北海道および全国の平均正答率を上回っており、理科の基礎的な知識・技能については定着が見られる領域といえます。</p> <p>◇「エネルギー」および「粒子」を柱とする領域で、全国平均を下回りました。また、記述式問題の平均正答率は、全国平均正答率を下回っており、課題解決のために調べるべきことを記述する点など、考察や計画立案の表現に課題が見られます。</p>

中学校
<p>国語 ◇漢字や「文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる」についての正答率が高く、概ね定着が図られています。</p> <p>◇「資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫することができるかどうかをみる」の正答率については、課題が見られました。</p>
<p>数学 ◇「数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」の領域での正答率が高く、概ね定着が図られています。</p> <p>◇「素数の意味を理解しているかどうかをみる」や「相対度数の意味を理解しているかどうかをみる」の間については、正答率が若干低い傾向が見られます。</p>
<p>理科 ◇「粒子」を柱とする領域の領域での正答率が高く、概ね定着が図られています。</p> <p>◇「知識・技能」に関する問については、正答率が若干低い傾向が見られます。</p>

学習習慣や生活習慣の傾向 ～児童生徒質問紙調査から～

小学校	具体的な方策
<p>「基本的な生活習慣（起床、就寝、朝ごはん）」については、全国平均と比較して良好な傾向が見られます。特に、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については、全国平均を大きく上回りました。</p> <p>また、児童の学習意欲や社会性、学校生活への満足度に関する項目では、「学校に行くのは楽しい」、「将来の夢や目標を持っていますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」といった項目で、全国平均を上回る高い肯定的な回答が見られ、児童が幸福感や自己有用感を感じながら学校生活を送っていることがわかります。特に「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」について「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を大きく上回りました。</p> <p>学校の授業時間以外の学習時間（月～金）が「1時間以上」の児童の割合は、全国平均とほぼ同等となり、読書習慣については、「読書は好きですか」と肯定的な回答をした児童の割合は、全国平均を大きく上回りました。</p> <p>一方、「分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について「できている」と回答した児童の平均正答率は、算数および理科で、それぞれの教科の全体平均正答率を下回っており、学習方法の自己評価と実際の学力との間に乖離が見られる可能性があります。</p>	<p>◇個々の習熟度に合わせた課題（ICTの活用も含む）の提示など、きめ細やかな指導を行っていきます。</p> <p>◇家庭学習の手引きの活用等、家庭との連携も深めながら家庭学習の充実を図っていきます。</p> <p>◇ご家庭では、家庭生活の中に「学習や読書、団楽」の時間を位置づけ、テレビやゲーム、動画視聴をする時間と学習や読書、団楽をする時間とのバランスを見直していただくよう、ご協力をお願いいたします。</p>